

東京都 スポーツ推進委員だより

第131号

(一社)東京都スポーツ推進委員協議会

2024年 1月 19日

編集：情報委員会

ご挨拶



新島 二三彦 会長挨拶



令和6(2024)年がスタートしました。

新年の幕開け早々に発生した能登半島地震により、能登地方を中心に甚大な被害が出ています。被害の全容は未だ掴めていないようですが、被災された皆様の健康と一日も早い生活再建、被災地の早期復興を願わずにはいられません。東京でもいつか起こる首都直下地震に備え、防災意識を高めていく必要性を改めて感じているところです。

さて、去年は、新型コロナウイルス感染症の分類が5類に引き下げられ、長く暗いトンネルからようやく抜け出せた感がありました。他方で記録的な猛暑が続く、夏の平均気温が過去最高となるなど、新たな脅威に見舞われた年でもありました。

スポーツ界では、野球の国・地域別対抗戦「ワールド・ベースボール・クラシック」で日本が14年ぶり3度目の優勝を果たし、コロナ禍で沈静化していた日本中を一気に元気づけてくれました。また、バスケットボール男子日本代表がパリ五輪出場を決定し、北口選手が女子やり投げで初の金メダルを獲得するなど明るい話題も多くありました。

スポーツ界では、野球の国・地域別対抗戦「ワールド・ベースボール・クラシック」で日本が14年ぶり3度目の優勝を果たし、コロナ禍で沈静化していた日本中を一気に元気づけてくれました。また、バスケットボール男子日本代表がパリ五輪出場を決定し、北口選手が女子やり投げで初の金メダルを獲得するなど明るい話題も多くありました。

スポーツ推進委員に関わる事業では、関東スポーツ推進委員研究大会が4年ぶりに対面形式で開催され、全国スポーツ推進委員研究協議会も予定どおり開催されました。東京都においては広域地区別研修会を始め、年内に予定した研修会は滞りなく実施することができました。

これは関係の皆さまのご努力・ご協力の賜物であり、改めて感謝申し上げます。

今年干支は「甲辰(きのえ・たつ)」。甲辰には、「成功」という芽が成長していき、姿を整えていく」といった意味合いがあるそうです。

7月にはパリでオリンピック・パラリンピックが開催されます。またサッカーアジアカップ男子日本代表や、アメリカ大リーグドジャースと大型契約した大谷選手・山本投手の活躍も期待されるなど、スポーツへの関心が高まると思われます。

私たちスポーツ推進委員には、障がいの有無を問わず生涯にわたってスポーツに親しむことができる環境づくりや学校部活動の地域連携・地域移行に向けた連絡調整の役割も期待されています。

東京都スポーツ推進委員協議会は、スポーツ推進委員の皆様の資質向上の一助となるよう取り組んでまいりますので、本年もよろしくお願いいたします。

会長 新島 二三彦

研修会



課題別研修会

令和5年8月26日(土)13時より、四ツ谷主婦会館にて、令和5年度課題別研修会(以下「研修会」と称す)が実施されました。

まず、東京都生活文化スポーツ局スポーツ担当部長 齊藤 陽睦様の紹介があり、東京都生活文化スポーツ局スポーツ総合推進部地域スポーツ振興担当課長 前原 淳様より、本研修会がスポーツ推進委員の皆様の取組の契機となるようにとの旨の挨拶がありました。次に、新島会長より、「『運動部活動の在り方に関するガイドライン』(令和5年3月)を踏まえた、意義ある研修会になることを期待する」と

の挨拶がありました。

参加者 88名

【研修会内容】

<講演>

テーマ：「公立中学校における部活動の地域連携・地域移行について」



講師：東京都教育委員会 主任指導主事 大村 賢治

講義内容は、

- (1) 部活動の意義について
- (2) 部活動改革の背景について
- (3) 東京都の取組について
- (4) 課題について

でした。講義の主だった報告は、下記の通りです。

○部活動の意義と地域連携・地域移行について

・地域連携と地域移行の違いを理解することが肝要である。

「地域連携」とは学校教育の一環として行われる部活動において、地域の人材を活用した部活動指導員や外部指導者の導入、複数校で実施する合同部活動の導入など、学校で運営・実施しつつも活動機会を確保するもの。

「地域移行」とは地域の多様な団体が学校と連携しながら運営・実施する地域クラブ活動によって、部活動を代替して生徒の活動機会を確保するもの。

○部活動改革の国の方針と東京都の取り組みについて



<教員の働き方改革、負担軽減>

・中学校教諭が土日に部活動・クラブ活動に関わる時間は、10年前に比べ約2倍で負担がより増加。
(公立小・中学校教員勤務実態調査研究報告書 文部科学省 平成31年)

<少子化と人口減少の加速化>

・学校数の減少、それ以上に進む少子化で生徒数・学校はさらに小さくなる中、部活動は持続困難。

・1運動部当たりの参加人数は近年減少傾向にあり、令和3年度については16.4人である。(日本中体連)

・運動部活動(中学)への参加率は、減少傾向にある。(令和3年度 58.1%：学校基本調査)

<学校の業務だが、必ずしも教師が担う必要のない業務：中央教育審議会 平成31年>

・調査・統計等への回答等(事務職員等)・児童生徒の休み時間における対応(輪番、地域ボランティア)・校内清掃(輪番、地域ボランティア等)・部活動(部活動指導員等)：部活動の設置・運営は法例上の義務ではないが、ほとんどの中学・高校で設置。多くの教師が顧問を担わざるを得ない実態。

<東京都の取組：指導者のスキルについて>

・専門的な技術指導のできない顧問が半数弱：47.6%(令和4年度 都教委 部活動実施状況調査)

・指導者のスキルについて指導者資格(必須)：日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格等・指導経験(必須)：地域スポーツクラブや民間スポーツクラブにおける3年以上の指導経験等・教員免許状(望ましい)：中学校又は高等学校の教員免許状。

<地域連携・地域移行を実施する上での課題>

・スポーツ団体等への支援～合同部活動・拠点校方式の活動・平日と休日の一貫した指導体制。

・指導者の質の保障・量の確保、地域クラブ等から学校活動への指導者派遣。

・活動場所となる施設の確保方策、休日の地域クラブ活動における学校施設の管理方法 など

・「会費」や「保険」の在り方～困窮世帯への支援・保険の加入 など。



<グループワークと発表>

テーマ：「スポーツ推進委員としての役割」4人1組のグループによる討議

・グループワークは、安全・費用・責任・保険・指導者資格等に集中して討議された。

記事 島貫 金雄 情報委員会(国分寺市)

写真 加来 剛 情報委員会(豊島区)

社員総会



令和5年度 第2回社員総会

令和5年9月27日（水）18時30分、武蔵野公会堂会議室にて定刻通り、第2回社員総会が実施された。

まず新島会長から、「季節はスポーツの秋ということで、引き続きコロナ感染対策やインフルエンザに気を付けながら、様々な場面でスポーツの環境作りに関して、改めて、皆さまへのお願いとご協力を申し上げます」とのご挨拶があった。



次に、最後に、定足数の確認がなされ（出席37名、委任状10名 合計47名）続いて議長の選任、議事録署名人が確認された。

同総会における議事は、以下の通りである。

（1）報告事項

1) 理事会報告（山本委員長）

第3回（6月14日）第4回（7月12日）第5回（9月13日）に実施された理事会の報告があった。詳細は配布議事録などを参照。

2) 各委員会（各担当委員）

○企画総務委員会（山本委員長）

- ・配布議事録などを参照（第2回）

○研修委員会（中村委員長）

- ・配布議事録などを参照（第4回）

○情報委員会（平野委員長）

- ・配布議事録などを参照（第2回）

○リーダー委員会（濱谷委員長）

- ・配布議事録などを参照（第5回）

3) 財務報告（井上財務）

- ・特になし

4) 会長会（山本委員長）

- ・配布議事録などを参照（R5年度一般社団法人東京都スポーツ推進委員協議会含む）

5) 初任者講習会（濱谷委員長）

- ・配布報告書などを参照（44名参加：次回は、時間を延長したいとの提案があった）

6) ニュースポーツ研修（中村委員長）

- ・配布報告書などを参照（当日申し込み者の漏れがあり、その対策について協議がなされた）

7) 令和6年度東京都広域地区別研修会事前説明会（中村委員長）

- ・資料なし（当日は、来年度のブロック担当者に集まり頂き、質疑応答が行われ、特にこちら側からは、交付金の適切な処理方法に関して、説明を行った。）

8) 課題別研修会（中村委員長）

- ・配布報告書を参照（88名が参加し、「学校 部活動の地域連携・地域いこう」）について、スポーツ推進委員がどのようにかわるかなど、グループワーク等がを通じて理解を深めた）

9) 令和5年度東京都広域地区別研修会（各担当者より、約3分程度の報告）

- ・第1B：中央区（7月2日）・第3B：大田区（9月9日）・第5B：江東区（9月9日）
- ・第6B：町田市（9月9日）・第8B：国立市（7月22日）・第9B：調布市（9月9日）
- ・第10B：小平市（9月2日）

10) 都スポだより130号発行

- ・資料なし（9月1日発行済。HPにも掲載）

11) その他（新島会長）

- ・7月24日に「東京都部活動連絡協議会」という組織が立ち上がった旨の報告。



（2）確認事項

1) 第64回全国スポーツ推進委員研究協議会青森大会

(新島会長)

- ・配布資料(青森大会開催要項)参照
- ・11月16日～17日に行われるが、50名の定員の内、40名が現在確定しており、残り10名分余裕がある。

2) 令和5年度東京都広域地区別研修会⇒(新島会長)

- ・第4B: 杉並区(9月30日)・第7B: 羽村市(10月28日)
- ・第11B: 三宅村・御蔵島(11月24日)
- ※各Bとも、対面での実施を予定している。

3) 東京都パラスポーツトレーニングセンター委託事業(新島会長)

- ・資料なし(11月26日に「手のひら健康バレー」の実施を予定している。都スポ協からは5名参加。当初予算は、1回につき10万円だったが、5万円に下方修正された。次回は、翌年3月に実施

予定だが内容は未定)

4) 令和5年度地域スポーツ支援研修会

- ・資料なし(区部: 港区リーブラ(1月20日) / 市町村部: 立川市アイム(2月10日) / 全域: 文京区民センター(2月17日) *いずれも詳細は未定

5) その他

- ・新ハンドブックの購入方法について⇒個々に直接購入

(3) 閉会の辞

その後、松田副会長によって閉会の辞が述べられ、終了時間は19時40分に散会した。

記事・写真 齋藤 利之 情報委員会(東久留米市)

全国大会



第64回全国スポーツ推進委員研究協議会青森大会



11月16日(木)、17日(金)の両日「スポーツで煌めく笑顔のために」～青い森から縄文の風に乗って、全国へ～の大会テーマのもと、青森県青森市のリンクステーションホール青森をメイン会場として、第64回全国スポーツ推進委員研究協議会青森大会が開催されました。

また、会場の定員数を超える参加人数もあり、別途会議室と結んでモニター越しに参加された方もいました。

1日目は歓迎アトラクションとして青森県立青森工業高等学校 ねぶた部の「青森ねぶた囃子」と五所川原第一高等学校津軽 三味線部の「津軽三味線」の演奏が披露されました。開会式のあと、表彰式が行われ東京都スポーツ推進委員も多数受賞されました。

基調講演は「笑って走れば福来たる～私が笑顔で走り

続けてきた理由～」と題し、福土加代子さん(ワコール女子陸上競技部アドバイザー)が、これまでのスポーツ歴や陸上競技を始めたきっかけ、オリンピック4大会連続出場の実績などユーモアを交えたお話をされました。また、現在は指導者としての活動の他、今年初めてランイベントを開催し、今後は要請があれば各地域のみなさんと一緒に同大会を運営出来たらと話されていました。

シンポジウムは「コロナ禍を超えたコミュニティスポーツの新しいカタチ」というテーマで、コーディネーター石澤伸弘教授(北海道教育大学札幌校)の進行により、シンポジストとして村山敏夫准教授(新潟大学人文社会教育科学系)、伊藤恵造准教授(秋田大学教育文化学部)、目澤伸一会長(青森県スポーツ推進委員協議会)をお迎えしました。新型コロナウイルスの感染者の減少に伴い、感染症法上の位置づけが変更され、日常生活が戻りつつあります。この間、公共スポーツ施設の閉鎖やスポーツイベントの中止など、地域スポーツ推進は停滞せざるをえませんでした。

また、三密の回避から運動やスポーツ活動は個別化が進み、スポーツとコミュニティとの関係性も希薄化がしているようです。一方、第3期スポーツ基本計画が策定され多様な施策が展開されるとともに、総合型地域スポーツクラブの登録・認証制度や学校運動部活動の地域移行が動き始め、地域スポーツは新しいステージを迎えているなかでどのように取り組んでいくのかをそれぞれの立場からお話いただきました。

2日目は2つの分科会に分かれて、それぞれのテーマについて事例発表と討論が行われました。



第1分科会は「スポーツが高齢社会で実現できること」コーディネーター村山敏夫准教授(新潟大学人文社会教育科学系)、発表者 田中博男氏(マスターズ陸上

世界記録保持者)、河原木浩氏(全日本マスターズスピードスケート銀メダリスト)、五戸秀樹氏(公益財団法人青森県老人クラブ連合会常務理事・事務局長)

第2分科会は「地域とスポーツがつながるために」コーディネーター伊藤恵造准教授(秋田大学教育文化学部)、発表者 正木昌宣氏(青森山田高等学校男子サッカー部 監督)、仲井宗基氏(八戸学院光星高等学校硬式野球部 監督)、小嶋徹也氏(青森スポーツクリエイション株式会社アカデミー事業部アカデミーディレクター/青森ワッツU-15 コーチ)

今大会ではスポーツと長寿社会、地域社会、総合型地域スポーツクラブや運動部の地域移行に関する中で、スポーツ推進委員の役割や活動についてとても参考となる研究内容でした。

記事 江上 郁子 情報委員会(北区)

写真 平野 秀夫 情報委員会(江戸川区)

全国大会



第64回全国スポーツ推進委員研究協議会・表彰

<受賞者の皆様>

受賞おめでとうございます

「敬称略」

<文部科学大臣表彰>



羽住敏久(足立区)



近藤幸雄(中央区)

<スポーツ推進委員功労者表彰>



瀬戸口幸則(府中市)



長崎より子(千代田区)



遠藤富美恵(足立区)

〈スポーツ推進委員功労者表彰〉



多部田里志（新宿区）



和田幸子（昭島市）

〈30年勤続表彰〉



小堤吉寿（日野市）

〈優良団体表彰〉



三鷹市スポーツ推進委員協議会

写真 平野 秀夫 情報委員会（江戸川区）

研 修 会



実 務 研 修 会

令和5年12月2日(土)13時30分から新宿スポーツセンター大会議室において、「誰もが楽しめるスポーツイベント」をテーマに、日本体育大学名誉教授 野村一路先生を講師にお招きして、令和5年度実務研修会(以下「研修会」と称す)が開催され、51名が参加しました。



研修会に先立ち、新島二三彦会長より、「野村先生には昨年度の実務研修会でも講師としてお話をしてもらった。今年度は実技を伴った研修会となる」との挨拶がありました。

東京都のスポーツ実施率は65.9%で昨年より3%、障がい者では35.2%と0.2%下落しているうえに、生活習慣病などで年間7万人が亡くなっています。

イベントを開催する場合には「普段運動をしていない人をターゲットにするべきであるが、これらの人はイベント情報をスルーしている。1回でもよいから来てもらうようにすると、来年も来よう、来月も来ようになり毎回来ようになる」。障がいの無い人のイベントに障がいのある人が来て「楽しめる」「いやだなと思わせない」ような現場での対応力がスポーツ推進委員にも求められます。これにより両者のスポーツ実施率も上がっていくので、受付時や駐車場係にあたるスタッフがちょっとした時間を使い、参加者がどのような人かをアセスメントすることが重要です。

さらに障がいを理解したうえで参加者の「人となり」を見ることも重要です。何らかの障がいがある人の割合は増えているので、人が集まれば何らかの障がいを持った人は必ずいます。その人たちに我々と同じ体験(スポーツなど)をしてもらうにはどうすればよいかを考えていくことが必要なことです。

そのために昨年の研修会の内容でもあった、A-PIE(エーパイ)プロセスを活用してほしいです。

また、障害者差別解消法を考慮してイベントを開催してほしいと思います。

イベントを開催する場合は複数のアクティビティを用意しておき(プランニング)、まずやってみて(インプリメンテーション)、うまくいかなかったら変える(改良を加える)、そしてエレベーション(評価)を行います。アンケートなどを活用することはもちろん、そこに書かれなかった参加者の「気持ち」「不満意見」が重要な情報となります。

後半は上記の座学内容を踏まえ、「カラーリング」「ドッチビーを使った運動」「卓球バレー」の実技を行い、オリジナルのアクティビティにさまざまな改良を加えて実施されました。



またスポーツ用具は高額なものもあり、数が揃えられないことがあります。それを理由に参加者の人数を絞るのではなく、地域の人に作成を依頼するなどしてアクティビティに参加してもらうようにします。

その際小さな地域コミュニティ(町会単位など)を利用します。これにより参加することが「楽しい」と思わせることも重要です。

最後に島田泰子副会長より、「実技を伴った具体的な研修だったので、今後の活動に参考になる研修会でした」との挨拶がありました。

記事・写真 加来 剛 情報委員会(豊島区)

社員総会



令和5年度 第3回社員総会

令和5年12月13日(水)18時、文京区民センターにて、第3回社員総会が実施された。

まず新島会長から、新型コロナウイルスが5類に移行され、活動が活発になり、ほぼコロナ前の活動に戻り広域地区別研修会など年内予定されていた全ての研修会が無事終わったことに対して謝辞が述べられた。



その後、定足数の確認がなされ(出席34名、委任状10名、合計44名)続いて議長の選任が行われた。

◆報告事項

1) 理事会(山本委員長)

第6回(10月11日)、第7回(11月8日)に実施された理事会の報告があった。

2) 各委員会(各担当委員長)

○企画総務委員会(山本委員長)

第4回企画総務委員会(11月29日)について説明があった。

○研修委員会(中村委員長)

第5回研修委員会(10月4日)、第6回研修委員会(11月1日)について説明があった。

○情報委員会(平野委員長)

第3回情報委員会(12月11日)について説明があった。

○リーダー委員会(濱谷委員長)

第6回リーダー委員会(10月4日)について説明があった。

3) 財務報告(飯ヶ谷財務)

4) 令和5年度東京都広域地区別研修会報告(各担当地区社員から報告)

第2B 文京区(9月16日)、第4B 杉並区(9月30日)、第7B 羽村市(10月28日)、第11B 三宅村・御蔵島(11月24日)

5) 第64回全国スポーツ推進委員研究協議会青森大会(松田副会長)

11月16日(木)・17日(金) 青森県青森市リンクステーションホール青森他で開催された。

テーマ:「スポーツで煌めく笑顔のために」

～青い森から縄文の風に乗って全国へ～

基調講演:「笑って走れば福来たる～私が笑顔で走り続けてきた理由～」 講師: 福士加代子氏

シンポジウム:「コロナ禍を越えたコミュニティスポーツの新しいかたち」

第1分科会:「スポーツが高齢社会で実現できること」

第2分科会:「地域とスポーツがつながるため」

6) 令和5年度第1回東京都パラスポーツトレーニングセンター委託事業(岡田副会長)

11月26日(日)14時から東京都パラスポーツトレーニングセンター多目的室で「手のひら健康バレー体験会」が行われた。

講師: NPO 法人手のひら健康バレー協会会長 牧野正雄氏
初めての委託事業であったが参加者が終始笑顔で楽しめた体験会でした。ただ申込者が少なく参加者を募る方法に工夫が必要だと感じた。

7) 実務研修会(中村委員長)

12月2日(土)に実施された実務研修会の内容について説明があった。スタッフも含めた参加者は51名でした。

講師: 日本体育大学名誉教授 野村一路氏

テーマ:「誰もが楽しめるスポーツイベント」

カローリング、ドッチビー、卓球バレーを使った運動の実技を通して事業実施するときに配慮すべきポイントを研修

会場: 新宿スポーツセンター

8) その他として新島会長から11月15日(水)に行われた「全国スポーツ推進委員連合 都道府県会長意見交換会」の報告などが行われた。



◆確認事項

1) 東京都地域スポーツ支援研修会(山本委員長)

区部 1月20日(土) 港区リーブラ

市町村部 2月10日(土) 立川市アイム

全域 2月17日(土) 文京区民センター

2) 都スポ協「交流ポッチャ大会」(山本委員長)

2月23日(金・祝)

会場: 墨田区立曳舟小学校体育館

3) 令和5年度第2回東京都パラスポーツトレーニングセンター委託事業(岡田副会長)

今回は3月20日(水・祝)に開催予定。

4) リーダー養成講習会申込時の確認事項(濱谷委員長)

最後に島田副会長から閉会の辞が述べられ、総会は滞りなく終了した。

記事 平野 秀夫 情報委員会(江戸川区)

写真 加来 剛 情報委員会(豊島区)

研 修 会



広域地区別研修会報告

地区	担当地区	期日・会場	研修テーマ・講師
1 B	中央区	7月2日(日) 中央区総合スポーツセンター	聴覚障がい・デフスポーツに関する理解の向上とスポーツ推進委員の役割の発見 講師：亜細亜大学准教授 橋本一郎氏
2 B	文京区	9月16日(土) 文京区民センター	スポーツと人権～スポーツでの暴力・体罰・ハラスメントをなくするには～ 講師：一般社団法人スポーツコンプライアンス教育振興機構 櫻井康史氏
3 B	大田区	9月9日(土) 渋谷区役所	「運動習慣の定着～みんなが楽しめる地域スポーツ活動とは～」 スロージョギングの健康効果と運動習慣の定着について 講師：日本スロージョギング協会理事 矢崎浩二氏
4 B	杉並区	9月30日(土) 杉並区役所第4会議室	障害平等研修 講師：2008年北京パラリンピック女子ゴールボール日本代表 高田朋枝氏
5 B	江東区	9月9日(土) 江東区文化センターレクホール	スポーツを支える～ボランティアの育成～ 講師：スポーツボランティア・ラウンドテーブル実行委員会 実行委員長 飯塚寿代氏 スポーツを通して私たちにできること 講師：元卓球日本代表キャプテン 藤井寛子氏
6 B	町田市	9月9日(土) 町田市立総合体育館	スポーツマンシップを考える ～スポーツ推進に関わる者・指導者ならば理解し実践すべきこと～ 講師：一般社団法人日本スポーツマンシップ協会代表理事会長 中村聡宏氏
7 B	羽村市	10月28日(土) S&D スポーツアリーナ羽村	誰もが笑顔で楽しめるスポーツとは～ゆるスポーツ創りを通じて～ 講師：公益財団法人横浜市スポーツ協会スポーツ事業部 地域連携課長 青井純子氏
8 B	国立市	7月22日(土) くにたち未来共創拠点矢川プラス	「スポーツとジェンダー」 ジェンダーの問題にスポーツ推進委員ができること 講師：京都先端科学大学健康医療学部 鈴木楓太氏
9 B	調布市	9月9日(土) 調布市文化会館たづくり	「誰でもできる新しい運動」 ～各地区のアイディアを盛り込んだ運動
10 B	小平市	9月2日(土) 小平市民総合体育館	共生社会の実現に向けたスポーツ推進委員の資質向上 講師：日本ブラインドサッカー協会 岡村康平氏 寺西一氏
11 B	三宅村・御蔵島村	11月24日(金) ニューピア竹芝サウスタワー	Nice try & Good job ～ポジティブな言葉を励みに～ 講師：日本女子体育大学准教授 ヨーコ ゼッターランド氏

記事 平野 秀夫 情報委員会(江戸川区)

編集後記

皆さん、こんにちは。新型コロナウイルスも昨年5月から分類が緩和され、皆さまの活動はもちろん、スポーツ観戦の声だし応援など、様々なスポーツシーンにおいても自粛が解禁・緩和された年となりました。

私たちの活動も新しい様式を鑑みながら、取り組んでいるなかで、特に、参加者がマスクにとってスポーツを楽しんでいる時の楽しそうな笑顔は、コロナ禍で忘れかけていた光景で、私たちの活動にも張り合いが持てる事として、そして、スポーツはアクティブで健康・健全な日常生活を過ごすための手段として有意義な事であり、また、参加者そして私たちスポーツ推進委員が、幸福感・満足感を得て、笑顔になれるような、企画・運営をするために皆さんで情報共有及び協力しあって行くことが、大切だと改めて認識させられました。

今年は、皆様にとって、新しいスポーツ様式での活動が更なる飛躍の登龍門となる年であるように、ご祈念申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

編集 菅野 宏潔 情報委員会（台東区）

#####